

クオリティ&エコロジーへ

環境対応を「アズーラ」で実現

岩井美術印刷

● Feature article

顧

客は、求めているものを提供できると思うところに、仕事の打診をするものだ。そう、魚を買う

う時に八百屋へ問い合わせをする客がないように。それは印刷でも同じことで、互いの生産能力を把握している同業者間での仲間仕事であればなおさらだ。オフ輪を持たない会社はオフ輪の仕事は打診されないし、4色機しか持たない会社が6色の仕事を打診されることはない。

したがって、ある分野の生産能力を持たない会社は、その分野の市場規模や伸張の可能性を実感することが難しくなる。これは、市場から強く求められ、拡大の一端を辿っている環境配慮型の印刷についても同様だ。市場の規模や傾向を知り、そのビジネスを掴むためには、まず環境配慮型の印刷に対応する生産能力を持つ必要がある。

岩井美術印刷（東京都墨田区）は、アグファ社製ケミカルレスCTP版「アズーラ」と、それに対応する菊全判サーマルCTP「アバロンLF」を今年3月に導入。環境配慮型の印刷に加え、高品質化という武器を手に入れ

たことで、発展を続ける環境マーケットへ進出する一歩を踏み出した。

同社の創業は昭和53年。単色機1台の体制からスタートした後、現在は、菊全判5色機、菊半裁6色機、5色機、4色機2台、2色機2台という印刷機群の他、各種ポストプレス機器を備え、33人の従業員を抱える規模に成長を遂げている。厚紙や特色という印刷品目を得意とし、同業者からの仲間仕事が100パーセントを占める、品質を問う印刷のプロからも厚い信頼を置かれている印刷会社だ。

環境保護対応が今後の印刷会社の必須条件に

同社がCTP導入を検討し始めたのは、昨年のこと。同業者からの仲間仕事が100パーセントであることから、フィルム入稿のケースが多



「アバロンLF」

く、刷版製作は自社内でPS版を焼いていた。が、昨今のデジタル技術の普及から、データ支給やCTP版を支給されるケースが増加。データ支給されれば、協力会社にCTP版の出力を依頼することで、対応を図ってきた。「アナログの刷版はどんどん減少していくとともに、徐々にデータ支給お

びCTP版支給が増えてきていた。今後、さらにこの傾向が加速していくのは間違いないので、CTP導入を真剣に考えなければならぬ時期に差し掛かっていると「思った」と、同社の岩井良春社長は、CTP導入を検討し始めた背景を語る。

CTP導入に向けてメーカー各社から提供されている製品の検討を始めたまでは良かったが、研究を進めるうちに、すべての製品のメリットがほとんど同じではないかと感じていた。そんな折、昨年9月に開催されたIGAS 2007を訪れ、何気なく立ち寄った日本アグファ・ゲバルトのブースで、ケミカルレスCTP版「アズーラ」の



岩井良春社長

存在を初めて知った。

「アズーラ」は他のCTPが持つメリットに加え、現像機がいらぬので省スペース・コンパクトであること、現像不要なので面倒な現像液管理をする必要がないこと、汚れや臭いもないこと、高精細印刷を簡単にできることなどに興味を惹かれた。そして何より、これからの印刷会社にとっての必須要件になるであろう環境保護に対応したケミカルレス方式で、かつ目視による検版もできることに魅力を感じるとともに、強い衝撃を受けた」と、同社CTP刷版部の岩井良太氏は、その場で「アズーラ」導入を心に決めたことを振り返る。



岩井良太氏

検版性ケミカルレスを両立

「アズーラ」は、現像液を使用しないサーマルCTP版で、レーザーでイメージングをした後に現像工程を必要とせず、ガム液とブラシで洗浄だけを行うケミカルレスのタイプ。現像液を使用しないため環境に優しい他、現像管理が不要なため簡単メンテナンスと安定した品質が実現できる。また、印刷機上で現像処理をするタイプではないので、印刷前に検版をすることが可能となっている。

また、同社が「アズーラ」と組み合わせ採用した「アバロンLF」は、「アズーラ」を毎時22版出力することができるケミカルレス対応での世界最速CTP。さらに、ガム引きをするクリーニングユニットも、自動現像機に比べてコンパクトに設計されている。

品質および生産性向上を達成 高精細印刷のサービスも展開

3月に導入した後、「アズーラ」を既に導入しているユーザー企業で1週

クオリティ&エコロジーへ 環境対応を「アズーラ」で実現

● Feature article



戸嶋剛氏

間ほど研修を行い、本格稼働を開始すると間もなくして、「アズーラ」および「アバロン」導入の効果を、まずは品質と処理速度の面で実感する。アナログ工程では見当が合わなかったり、平網でボケが入ったりする等の理由から、何度も焼き直しをすることがあったが、それがなくなった。また、CTP版の出力を協力会社に外注していた時と比較すると、瞬時に版出力ができるので、生産スピードが向上している。

さらに、240線の高精細XMスクリーニング「スブリマ」も採用。通常の印刷と何ら変える必要がなく高精細

スクリーニング印刷ができるこの技術で、容易にクオリティの高い印刷を提供することができている。

「アズーラ」の一番のメリットは、現像液の管理が必要ないこと。現像液は新しい時と古い時では現像の度合いが変わってくるが、その不安定要素がないため、版の品質にムラがなく常に安定する。現像液の管理から解放され、作業負担が軽くなっている。また、メンテナンスもとても楽で、通常の現像機と比べると3分の1程度の時間しか要さない。さらに、通常は毎日、出力した版の網点を測定して、きちんと網点が出ているかチェックするが、アズーラを使うとその必要もない」（同社CTP刷版部の戸嶋剛氏）。

環境配慮型印刷をベースに ビジネスの幅と方向を拡大

同社では環境配慮について、まず半年程前からノンアルコール印刷を始めている。これは、オペレーターの作業環境への配慮、そして印刷立ち会いが求められる仕事が多いため

ら、工場内の臭いで顧客に不快感を与えないために始めた。今回の「アズーラ」導入はこれに続くもので、同社の環境配慮型の印刷への取り組みが大幅な進歩を遂げた。「顧客に『アズーラ』を導入したことを話すと、その多くから環境対応の取り組みをしていると評価してもらえ、そのような仕事への対応力について聞き返される。現在のCTP化率はまだ全体の1割程度しかないが、今後のさらなるデジタル化の伸展に伴い、その数字はもっと上がるだろう。

また、現在フィルム入稿されているものもデータから出力したものが多いため、当社がCTPを導入したことを顧客に伝え、それをデータ入稿にしてもらうようにし、CTP化率を大きくしていく。CTP化率を高めることがそのまま、当社の環境配慮型印刷への取り組みを推進することになるので、よりいっそうCTPを使いこなせるように努めていく」（岩井社長）

同社では、「アズーラ」導入を機に、環境保護印刷推進協議会（E3PA）が定めるクリオネマークの認証取得も



工場内の様子

目指している。「環境配慮型の印刷ができることを広くアピールするためにも、クリオネマークの認証取得に取り組んでいく。

また、これまでは同業者からの仲間

仕事で100パーセントを占めていたが、「アズーラ」による環境配慮型印刷および「スブリマ」による高品質印刷という2つの武器を駆使し、印刷物発注者への直接的な営業活動も行って

ビジネスの拡大を目指す。

さらに、CTPの生産能力にはまだ大きな余裕があるので、周囲のCTP未導入の会社へのCTP版出力サービス、そして特別な技術を全く要さずに誰にでも印刷することができるといふ『スブリマ』の特徴を活かした高精密スクリーニングの出力サービスを行うことも視野に入れている」と、岩井社長は、「アズーラ」を導入して環境配慮型印刷に対応したことをベースに、Quality&Ecologyをテーマとしてビジネスの幅を広げていく方向性を打ち出している。